

initiative

# 株式会社インターネットイニシアティブ 2007年3月期第1四半期連結業績説明会

Internet Initiative Japan Inc.

2006.8.9

注意事項：本資料における2005年3月期第1四半期から第3四半期までの連結決算情報については、2005年4月11日付プレスリリースにて既報の決算修正を反映した数値としています。



Internet Initiative Japan

# 事業等のリスク

本資料には、1995年米国民事訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)の「セーフハーバー」規定に定義する「将来性の見通しに関する記述(forward looking statements)」に該当する情報が記載されています。本資料の記載のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。現時点において想定しうる当社グループの主なリスク及び不確実性として、

- 1) 国内景気の低迷、経済情勢の変化等による企業のシステム投資及び支出意欲の低下、
- 2) あらゆる事象を要因とするサービスの中断等による当社グループのサービスへの信頼性の低下、
- 3) 役務提供に必要なバックボーン回線、外注費等の調達要領及びコストの変化、
- 4) 競合他社との競争及び価格競争の進展、
- 5) 業績の四半期毎の季節変動の増大、
- 6) 保有株式の時価の変動による経営成績及び財務状況への影響、

等がありますが、これら及びその他のリスク及び不確実性については、当社グループまたは当社が、1934年米国証券取引法(Securities Exchange Act of 1934)に基づき米国証券取引委員会に届出し開示している英文年次報告書(Form 20-F)及びその他の書類をご参照下さい。

# 2007年3月期第1四半期 連結決算総括

第1四半期は、企業の決算月に関連する季節要因にて売上・利益共に最も弱含みする傾向がありますが、ネットワークシステムの設計、構築、運用、保守等のシステムインテグレーション及びセキュリティ関連サービス、メール関連アウトソースサービス、データセンターサービス等の付加価値サービスが順調に推移し、対前年同期比大幅増収増益となり、好調なスタート。

営業収益（売上高） **124.4億円**（前年同期比 **25.9%増**）

営業利益 **5.6億円**（前年同期比 **126.6%増**）

## 《ソリューションラインアップの強化》

当社は高い技術力をベースに、顧客の高品質・信頼性の高いネットワークサービス、アウトソース関連ニーズの拡大に対応するため、ソリューションラインアップを強化しております。

第1四半期においては、多拠点接続ソリューションやセキュリティ関連サービスにて、新サービスの提供開始、機能追加等を行いました。

## 《繰越損失の解消》

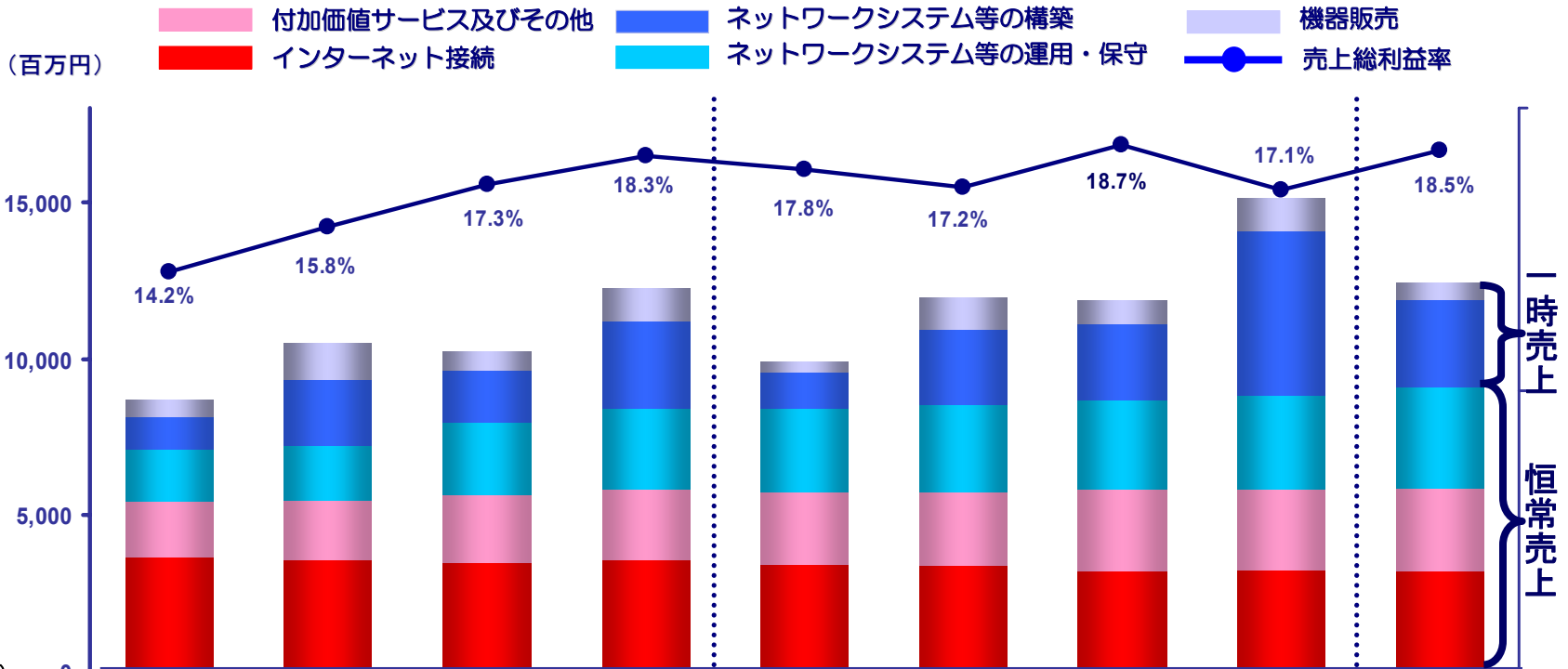
2006年8月4日を効力発生日として、資本準備金及び資本金を減少し、個別財務諸表における繰越損失を解消いたしました。

これにより財務体質の改善を図り、今後の機動的な資本戦略の展望を可能としてまいります。

# 2007年3月期第1四半期 連結実績

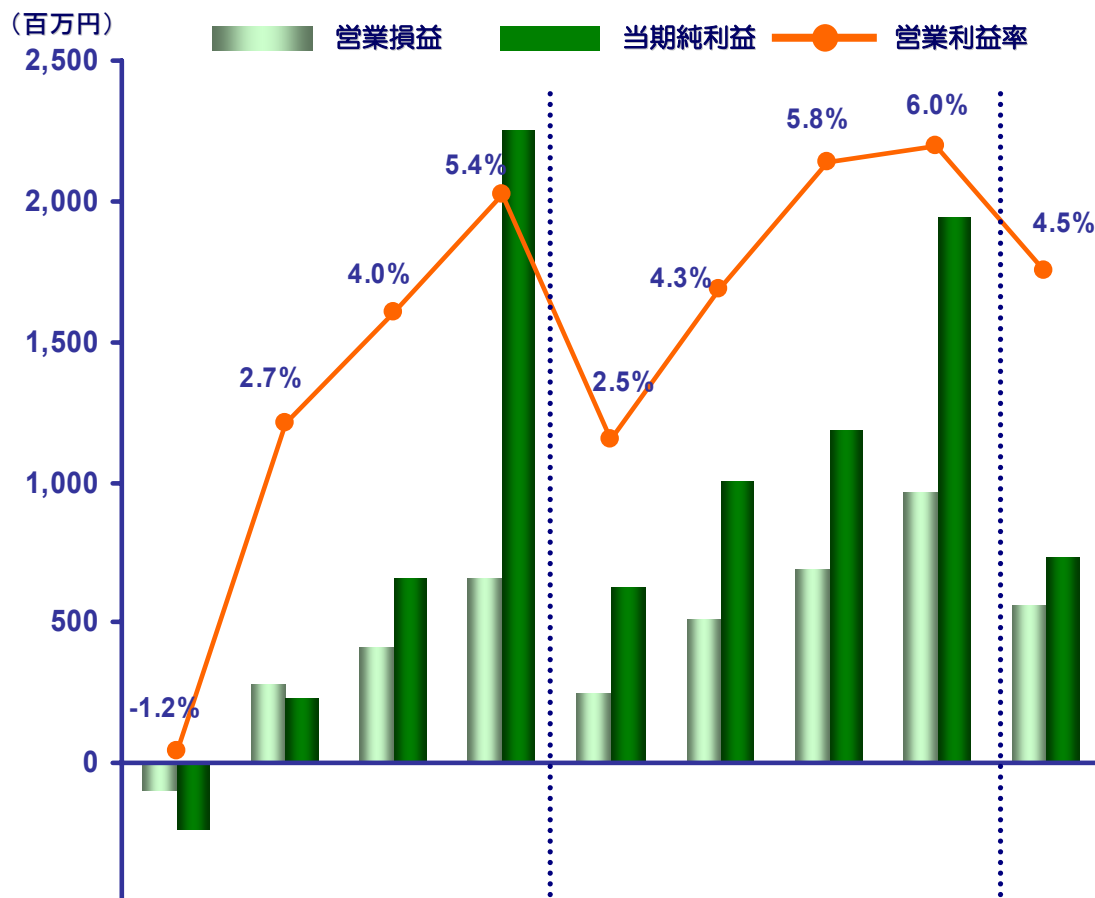
	1Q06 (2006/4-2006/6)		1Q05 (2005/4-2005/6)		前年同期比
	実績	売上高比	実績	売上高比	
営業収益 (売上高)	124.4億円	100.0%	98.8億円	100.0%	+25.9%
売上原価	101.3億円	81.5%	81.2億円	82.2%	+24.8%
売上総利益	23.0億円	18.5%	17.6億円	17.8%	+30.7%
販売管理費等	17.4億円	14.0%	15.2億円	15.3%	+15.1%
営業利益	5.6億円	4.5%	2.5億円	2.5%	+126.6%
第1四半期純利益	7.3億円	5.9%	6.2億円	6.3%	+17.8%

# 連結営業収益(売上高)四半期推移



営業収益(売上高) (百万円)	1Q04	2Q04	3Q04	4Q04	1Q05	2Q05	3Q05	4Q05	1Q06
機器販売	531	1,167	625	1,043	273	1,000	769	1,042	542
ネットワークシステム等の構築	1,040	2,101	1,672	2,786	1,193	2,405	2,440	6,258	2,778
ネットワークシステム等の運用保守	1,655	1,737	2,298	2,566	2,647	2,757	2,821	2,984	3,254
付加価値サービス及びその他	1,779	1,936	2,158	2,301	2,321	2,389	2,613	2,601	2,641
インターネット接続サービス	3,670	3,572	3,508	3,559	3,446	3,378	3,227	3,248	3,223
営業収益(売上高)	8,675	10,512	10,261	12,254	9,880	11,929	11,870	16,133	12,437
売上総利益率	14.2%	15.8%	17.3%	18.3%	17.8%	17.2%	18.7%	17.1%	18.5%

# 連結利益四半期推移

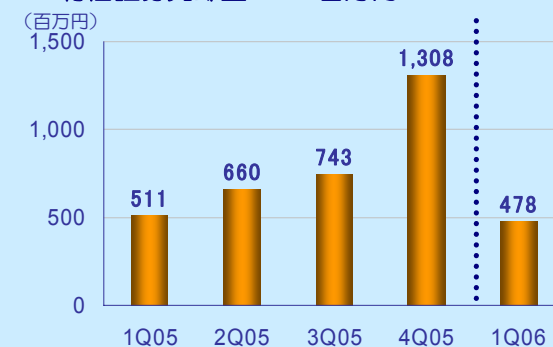


## 営業利益

- 営業利益、アウトソーシング売上の順調な推移に伴い前年同期比**126.6%**増。
- 営業利益率は、前年同期比**+2.0**ポイントの改善。
- 営業利益、営業利益率共に、昨年度第2四半期を上回る水準で推移。

## 第1四半期純利益

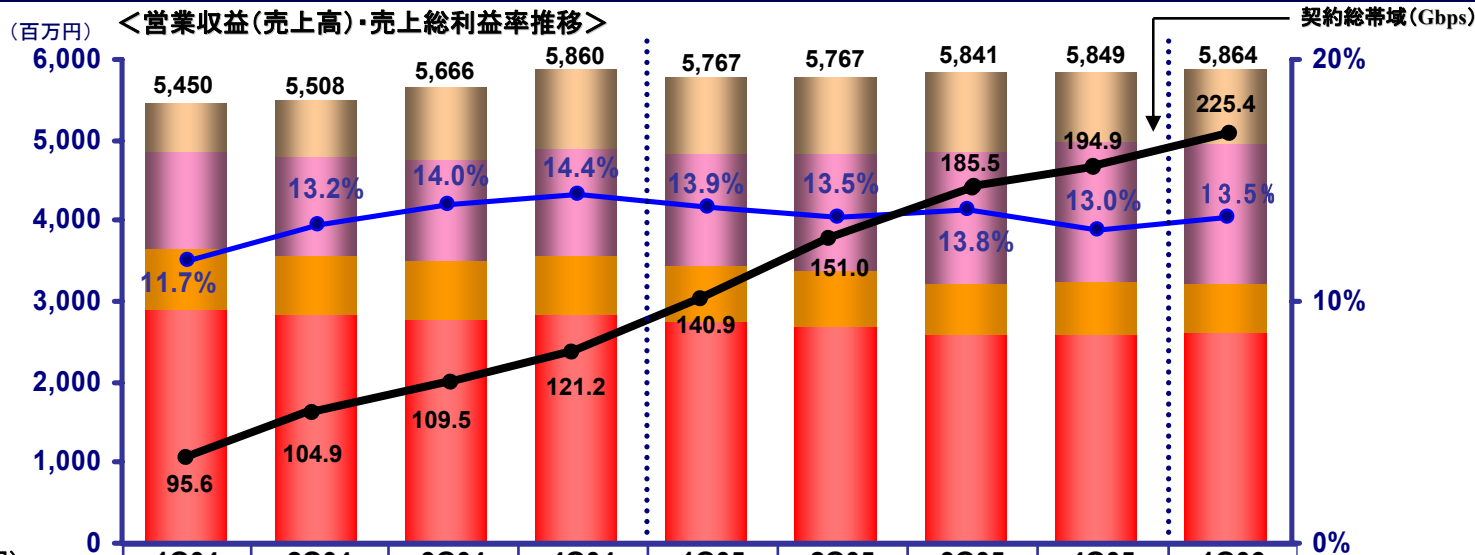
- 有価証券売却益：478百万円



- 法人所得税は、連結子会社の法人税等があり**149**百万円。
- 持分法による投資損益は、新設関連会社に関わる持分法損失等の増加により**△73**百万円。

# 各サービスの概況 連結四半期推移

## インターネット接続及び付加価値サービス



営業収益(売上高) (百万円)	1Q04	2Q04	3Q04	4Q04	1Q05	2Q05	3Q05	4Q05	1Q06
● 売上総利益率	11.7%	13.2%	14.0%	14.4%	13.9%	13.5%	13.8%	13.0%	13.5%

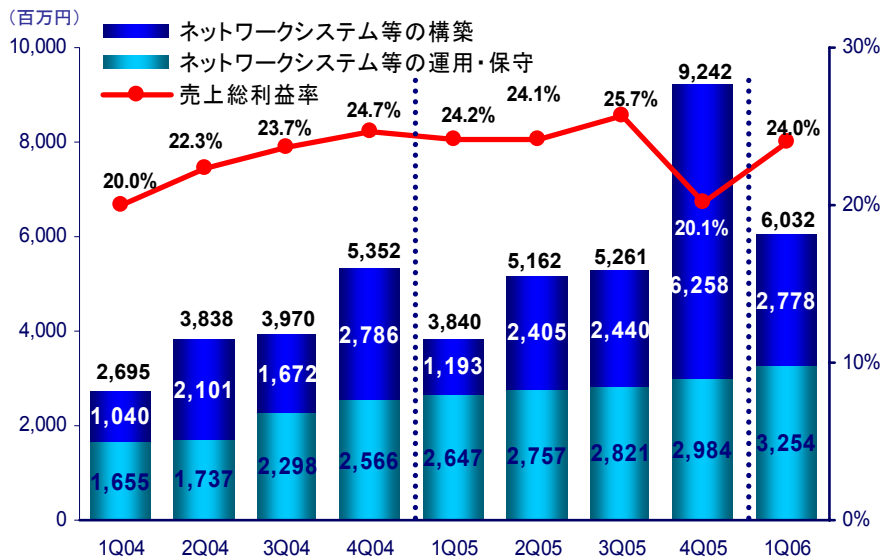
- 専用線接続サービスは、多拠点接続案件の獲得や広帯域IPサービスの受注が好調に推移し、前四半期比0.5%の増収。前年同期比では、関連会社であったAIHとの相互接続に伴う売上減少（234百万円）があり減収。
- ダイヤルアップ接続サービスは、一部OEM大口提供先のサービス停止等があり、前年同期比、前四半期比共に減収。
- 付加価値サービスは、データセンター関連、メールアウトソース、SEILレンタルサービス、SMFサービスなどが順調に推移し前年同期比 25.5%の増益。前四半期比では、前四半期にデータセンター関連一時売上があったため若干の減収。

- 売上総利益率は、前四半期比 0.5ポイントの改善。
- 専用線接続契約数 **15,354回線**  
(前年同期比 +3,080回線、+25.1%)  
(前四半期比+805回線、+5.5%)
- 契約総帯域 **225.4Gbps**  
(前年同期比 +84.5Gbps、前四半期比+30.5Gbps)

# 各サービスの概況 連結四半期推移

## システムインテグレーション(SI)

＜営業収益(売上高)・売上総利益率推移＞



●第1四半期は季節要因により弱含みする傾向があるが、構築案件が前年同期比にて大幅増収。また、前四半期に構築案件が大幅伸長したことに伴い、恒常的な売上である運用・保守も順調に増加。

営業収益：6,032百万円（前年同期比 57.1%増）

- ネットワークシステム等の構築：2,778百万円（前年同期比 132.9%増）
- ネットワークシステム等の運用保守：3,254百万円（前年同期比 22.9%増）

●売上総利益率は、前四半期比 3.9ポイントの改善。

### アウトソーシング

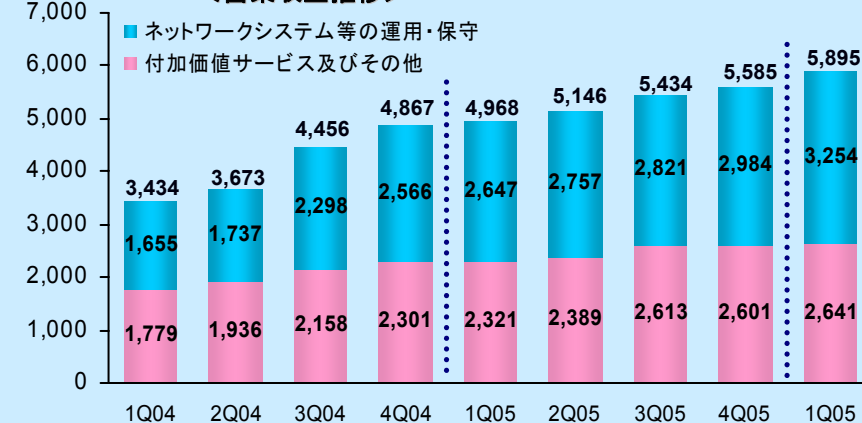
「ネットワークシステム等の運用・保守」+「付加価値サービス及びその他」

●営業収益 5,895百万円（前年同期比 18.7%増）

- 付加価値サービス及びその他：2,641百万円（前年同期比 13.8%増）
- ネットワークシステム等の運用・保守：3,254百万円（前年同期比 22.9%増）

●今後もネットワークシステム等の構築案件の伸長に伴う、運用・保守案件の増加、また、セキュリティ関連や多拠点接続案件の増加を見込む

＜営業収益推移＞





## 2007年3月期第1四半期 連結B/S・CF等の状況

(単位：百万円)

## &lt;B/S主要項目&gt;

	2006年6月末	2006年3月末	増減
現金及び預金	13,091	13,727	△636
売却可能 有価証券	4,288	6,775	△2,487
銀行借入 (長期、短期)	6,970	6,835	135
資本金	16,834	16,834	—
資本準備金	26,599	26,599	—
欠損金	△28,947	△29,680	734
その他包括利益 累計額	4,073	6,554	△2,480
資本合計	18,475	20,222	△1,747

## &lt;CF主要項目&gt;

	1Q06	1Q05	増減
営業活動CF	905	1,027	△123
投資活動CF	△267	△43	△224
財務活動CF	△1,268	△1,176	△92
期末残高	13,091	5,106	7,985

# 2007年3月期第1四半期 その他の連結財務指標の状況

( 単 位 : 百 万 円 )

	1Q06	1Q05	増減率
C A P E X	842	533	+57.9%
減 価 償 却	1,107	1,014	+9.2%
Adjusted EBITDA	1,666	1,261	+32.2%

# 2007年3月期 連結業績見通し

	2007年3月期 (2006/4~2006/6) 1Q実績	2007年3月期 (2006/4~2006/9) 中間期見通し	2007年3月期 (2006/4~2007/3) 通期見通し	2006年3月期 (2005/4~2006/3) 通期実績	対前年度比
営業収益 (売上高)	124.4億円	250.0億円	550.0億円	498.1億円	+10.4%
営業利益	5.6億円	10.0億円	32.0億円	24.1億円	+32.7%
税引前 当期利益	10.0億円	26.0億円	63.0億円	53.8億円	+17.1%
当期純利益	7.3億円	20.0億円	50.0億円	47.5億円	+5.2%

トピック

# 「IIJマネージドVPN PRO」を提供開始

自社開発ルータSEILをベースにした柔軟性の高い、新インターネットVPNサービス「IIJマネージドVPN PRO」を2006年6月より提供開始。  
インターネットVPNソリューションを大幅に強化。

## 「IIJマネージドVPN PRO」

高品質なIIJバックボーン上に顧客専用のVPN網を構築・提供するサービス。IIJの豊富なVPN構築実績から得たノウハウを活かして、企業ネットワークに求められる機能と構成をマネージドサービスとしてパッケージ化して提供。顧客はネットワーク構成を決めるだけで、高度なVPNの利用が可能になる。

### 《主な特徴》

#### ✓高い柔軟性と高機能メニュー

各種VPN機器の選択や組み合わせが可能。かつ、冗長構成やメッシュ構成のVPNを標準メニューとしているため、顧客のニーズにあった冗長化ネットワークの構築を実現。

#### ✓オートコンフィグレーションと高セキュリティの実現

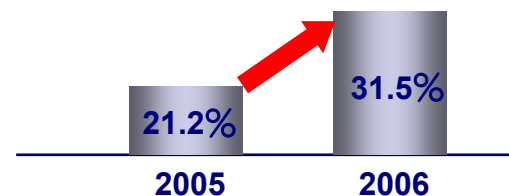
IIJ独自のネットワーク接続管理の仕組みで運用することで、サービス導入時の自動設定(オートコンフィグレーション)を実現。また、SMF独自の技術による高いセキュリティレベルを可能に。

#### ✓設計から運用までワンストップで提供

VPN機器・アクセス回線などの手配から設計、構築、運用までをIIJがワンストップでサポート。

当社は高い技術力をベースに、高品質かつ信頼性の高い、サービスをプロダクトとして顧客へ提供。インターネットVPNサービスは従来より提供しておりますが、昨今、企業の基幹ネットワークにも導入が拡大しているインターネットVPN市場において、引き続きサービス展開していく予定です。

インターネットVPNの採用率  
(調査対象企業が利用するWANサービスへの採用率)



2006年度の31.5%のうち、22.2%は基幹ネットワーク

出所：IDC Japan 企業ユーザーデマンド調査 2006/6/27発表

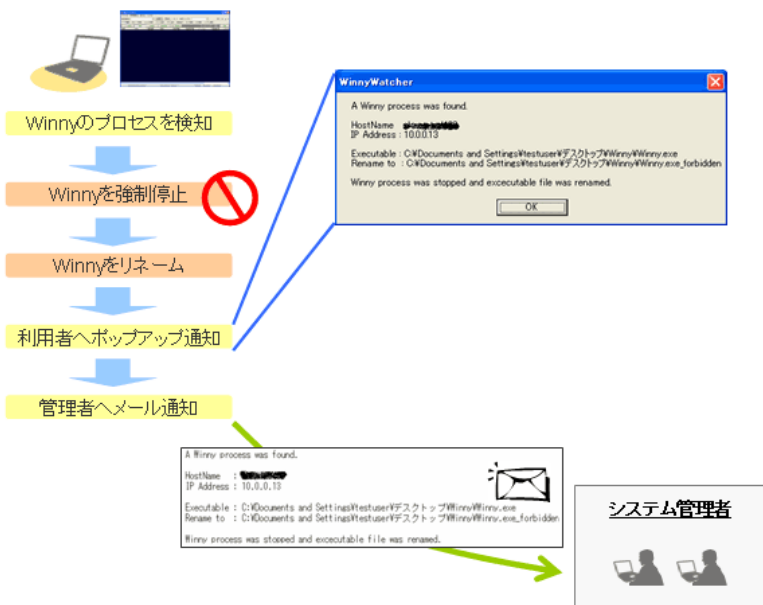
# トピック

- ・「検疫ネットワークソリューション」の機能追加
- ・「IIJ Internet-LAN サービス」のアクセス回線を拡充

セキュリティ対策が不十分なPCをネットワーク側で検知し、隔離・対策を行う「IIJ 検疫ネットワークソリューション\*1タイプB」に、Winnyの自動検出・削除機能を追加。

「IIJ検疫ネットワークソリューションタイプB」 Winny 対策ツールイメージ図

Winnyがインストールされた端末



※全82種類のWinnyに対応

\*1 「IIJ検疫ネットワークソリューション」  
セキュリティ対策が不十分なPCをネットワーク側で自動的に検知し、隔離・対策を行うことによって、セキュアな社内LAN環境を実現するソリューション。

- タイプA（ゲートウェイ型）：拠点を多数もつ企業向けソリューション
- タイプB（LAN型）：中・大規模LAN向けのハイブリッドソリューション

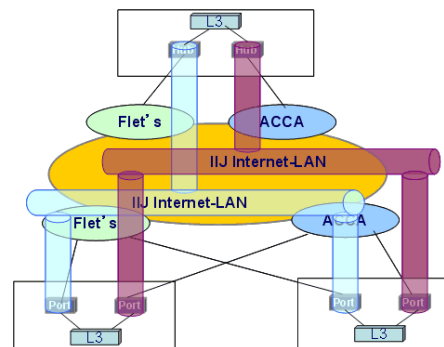
仮想イーサネット空間上でプライベートネットワーク環境を提供する「IIJ Internet-LAN サービス\*2」のアクセス回線を拡充。

従来のアクセス回線であるフレッツサービス、地域電力会社の光ブロードバンドサービスに、アッカADSL、各種キャリア専用線をラインアップに追加。

## 《アクセス回線ラインアップによるメリット》

- ✓マルチキャリアでの広域イーサネット網の冗長構成を国内最安値で提供可能。
- ✓顧客のポリシーに対応し、アクセス回線に専用線を利用することで、信頼性の高い広域イーサネットWAN環境を実現。

「IIJ Internet-LANサービス」活用 構成図



## \*2 「IIJ Internet-LAN サービス」

IIJのバックボーン上に顧客の仮想的なイーサネット空間を形成し、全国の複数拠点間において、従来のLAN環境と同様のプライベートネットワーク環境を提供するサービス。IIJ SMFを用い、設定から運用・保守までセンターサーバにて一元管理が可能。

## トピック

## 繰越損失解消について

個別財務諸表における繰越損失**24,520**百万円を解消するため、**2006年8月4日**付にて下記のとおり、資本金及び資本準備金を減少いたしました。

減少した金額

資本金	<b>2,539,222,196円</b>
資本準備金	<b>21,980,395,078円</b> （2006年3月期末の資本準備金全額）

減少後の資本構成

資本金	<b>14,294,625,054円</b>
資本準備金	<b>0円</b>
当期末処理損失	<b>0円</b>

- 本処理に伴って、資本合計、発行済株式総数、1株当り株主資本に変更は生じません。
- 米国会計基準を採用している連結財務諸表においては、日米の会計基準の違いにより、繰越損失解消の処理は行われず、連結財務諸表における資本金及び資本準備金の額に変更はございません。

# 主要なプレスリリース一覧

発表日	件名
2006/8/1	「IIJ SMFサービス」の機能を拡張し、各種ネットワークサービスへの対応を拡充 - 新たに各種キャリアの閉域網サービスや、Yahoo!BB・CATVなどの他社ISPサービスに対応 -
2006/7/13	不正侵入防御機能を実装した「IIJマネージドIPSサービス」を提供開始 - 「IIJネットワーク侵入検知サービス」のIDS機能を大幅拡充し、セキュリティ・ラインアップを強化 -
2006/6/13	「IIJ Internet-LAN サービス」のアクセス回線を拡充 - アッカADSL等に対応し、広域イーサネットの冗長構成を国内最安値にて実現 -
2006/5/9	高い機能と柔軟性を備えた新VPNサービス「IIJマネージドVPN PRO」を提供開始 - IIJのエンジニアがフルマネージメントする高度な新インターネットVPNサービス -
2006/4/27	「検疫ネットワークソリューションタイプB」にWinny自動検出・削除機能を追加 - 社内ネットワークに接続するPCのWinnyプログラムファイルを自動検出・削除 -

## ソリューション紹介

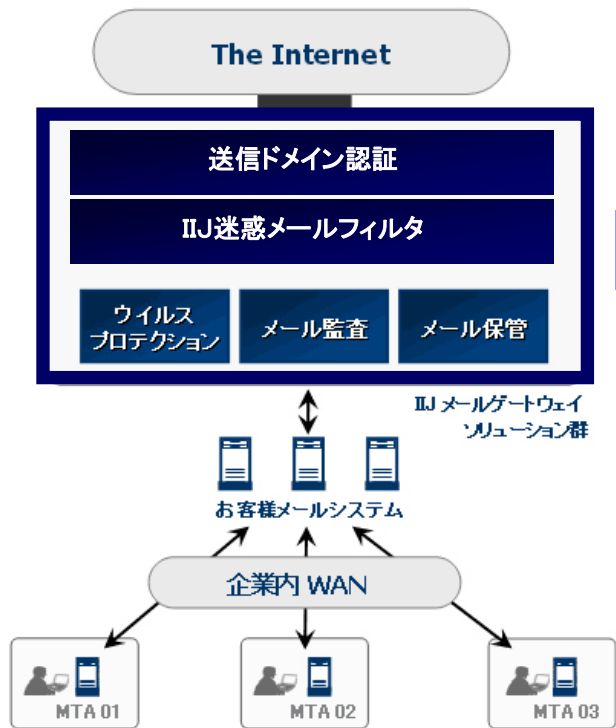
「IIJメールゲートウェイソリューション」

「SMFインターネットVPNソリューション」



# 「IIJメールゲートウェイソリューション」について

## 《ソリューション概要》



### 《各ソリューション詳細》

- 送信ドメイン認証（一部提供開始）：From 詐称スパムの特定
- IIJ迷惑メールフィルタ：広告・フィッシングメールを遮断・隔離
- ウイルスプロテクション：ウイルスに感染した送受信メールを削除
- メール監査：社内から送信されるメールを監査
- メール保管：送受信メールを全て保管し、万一の際の証拠を保全

### 《導入のメリット》

- ✓アウトソース型ソリューションのため、ユーザの資産リスクを伴うことなく導入が可能。
- ✓多言語迷惑メール対策強化により、あらゆる迷惑メールの進化に追従・対応が可能。
- ✓送信メール監視から送受信メールの全保管まで、スプール以外は全てアウトソースにすることでユーザの運用コストを大幅な削減を実現。

IIJは国際的な迷惑メール対策ワーキンググループMAAWGや、国内の対策組織JEAGの設立メンバーとして、世界レベルの技術交流や活動を通じ、業界のイニシアティブをとっている。

また、最新の技術動向や取り組みをサービスにフィードバックし、高品質のソリューションを提供している。

### 主な「IIJメールゲートウェイソリューション」導入企業

**FANCL**  
株式会社ファンケル様

**TOSHIBA** **RICOH**  
株式会社東芝様      リコー株式会社様

THE DOCUMENT COMPANY  
**FUJI XEROX**  
株式会社富士ゼロックス様

株式会社フジテレビジョン様

# 「IIJメールゲートウェイソリューション」導入事例

## 株式会社ファンケル様

### IIJメールゲートウェイソリューション導入前

#### ファンケル問い合わせ窓口

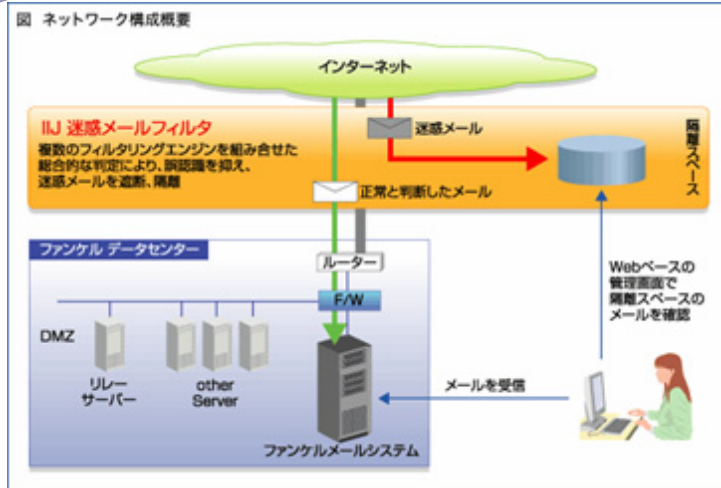
- ①美容や健康に関する相談窓口：電話
- ②商品発送や支払い、各種手続き問い合わせ、投資家や消費者からの問い合わせ  
：Webやメール ➡ **90%以上がスパムメール**

【従来のWebやメールの対応方法】：スパムメールを含む全メールをチェックして内容を確認

- ➡ スパムによる業務停滞のリスク
- ➡ 重要メール、緊急メールの見落としのリスク
- ➡ ストレージへのスパムの蓄積によるディスク容量の寡占とウィルス感染の危険性

### IIJメールゲートウェイソリューション導入後

- ・ IIJのデータセンター内で運用管理（ファンケルのデータセンターに入る前にスパムメールを遮断・隔離）
- ・ スパム発生状況の24時間監視
- ・ フィルタリングルールのデータベース更新（新種のスパムにも迅速対応）
- ➡ **スパムメールの99%を遮断・隔離**



# 「SMFインターネットVPNソリューション」について

## 《インターネットVPN導入前の課題》

### 課題①

既存WANへの不満

### 課題②

セキュリティへの不安

### 課題③

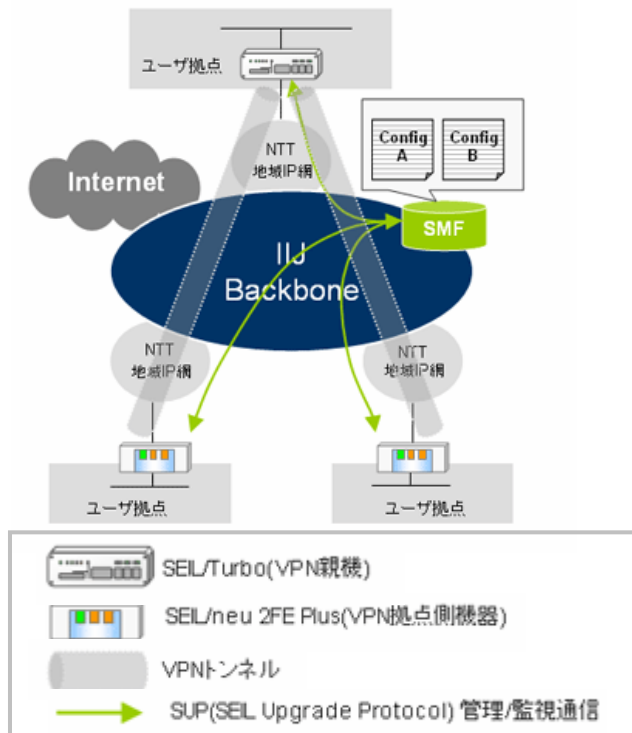
安価なブロードバンド回線の信頼性に対する不安

### 課題④

VPN機器の設定や運用が複雑

## 《導入のメリット》

- ✓アウトソース型ソリューションのため足回り回線を選ぶ必要がなく、既存専用線はもちろん、安価なブロードバンドサービスも利用可能。
- ✓VPNを構成する機器「SEIL」にてEnd to Endの通信を暗号化。盗聴や改ざんのリスクを排除。
- ✓冗長構成にも対応。メイン回線にブロードバンド回線、バックアップ回線に異なるキャリアのブロードバンドサービスや広域LAN等のWANサービスを活用することが可能。
- ✓すべての設定をウィザード形式で行うことが可能。



## 「SMF」について

IIJが独自開発した集中管理型ネットワークマネジメントシステム。企業や家庭に設置される通信機器や家電製品を中央管理サーバにて一元管理することにより、複雑な初期設定や設定変更を行うことなくネットワークサービスの利用が可能となる。

2006年3月には、その独自性が認められ、特許権を取得。(特許第3774433号)

## 主な「SMFインターネットVPNソリューション」導入企業

株式会社仙台銀行様  
 株式会社スリーエフ様  
 株式会社ドン・キホーテ  
 財団法人日本道路交通情報センター  
 (JARTIC) 様

株式会社モスフードサービス様  
 株式会社三井住友銀行様  
 株式会社ジャパンエナジー様

# 「SMFインターネットVPNソリューション」導入事例

株式会社スリーエフ様

## 《導入条件》

低価格での商品提供のため、

基本方針「ローコストオペレーション」

1. 従来コンビニに比べ、効率化を図り、人員を削減

2. 高い効率性と信頼性を備えたネットワークシステムの導入

## 導入内容

主回線：IIJのSMFインターネットVPN (Bフレッツ)

副回線：NTTコミュニケーションズのGroup-VPN

(アッカ・ネットワークス)

➡低コストでマルチキャリアの冗長化ネットワークを実現

➡二重化されることにより、監視にかかる運用コストを低減

・店舗内LANのネットワークアドレスを全て共通化したことにより、POSシステム等の故障時にも機器を取り替えるだけで対応可能に。

